

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—129295

⑪ Int. Cl.³
C 10 M 7/26
// B 22 C 3/00
C 08 F 230/02

識別記号

庁内整理番号
7824—4H
6689—4E
7308—4J

⑬ 公開 昭和59年(1984)7月25日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ 離型剤

⑮ 発明者 西富克彦

堺市浜寺諏訪森西2-104

⑯ 特 願 昭58—3187

⑰ 出 願 人 大日本インキ化学工業株式会社

⑱ 出 願 昭58(1983)1月12日

東京都板橋区坂下3丁目35番58号

⑲ 発 明 者 松本泰宏

⑳ 代 理 人 弁理士 高橋勝利

奈良市南城戸町58-3

明 細 書

1. 発明の名称

離 型 剤

2. 特許請求の範囲

基
パーフルオロアルキル含有ビニル単量体(a)を20~80重量
%、一般式〔I〕 $\text{CH}_2=\underset{\text{R}_1}{\text{C}}-\text{R}_2-\text{O}-\underset{\text{O}}{\overset{\text{O}}{\text{P}}}(\text{OM})_m$ 〔I〕
(但し、 R_1 は水素原子あるいはメチル基を表わし、 R_2 は
炭素数6以下のアルキレン基又は置換したアルキレン基あ
るいはそれらとエーテル基、エステル基、アミド基等が連
結した2価の結合基を表わし、 n 、 m は1あるいは2であ
り、かつ $n+m=3$ である。 M は水素原子、アルカリ金属
原子、アンモニウム基、又は置換アンモニウム基を表わす。)

で表わされるリン酸基含有ビニル単量体(b)10~50重量
%と一般式〔II〕 $\text{CH}_2=\underset{\text{R}_1}{\text{C}}-\overset{\text{O}}{\text{C}}-\text{O}-\text{R}_3$ 〔II〕
(但し、 R_1 は水素原子あるいはメチル基を表わし、 R_3 は

炭素数6~30のアルキル基を表わす。)

で表わされる炭化水素系ビニル単量体を10~70重量%
を重合して得られる共重合体を含んでなることを特徴とす
る離型剤。

3. 発明の詳細な説明

本発明は離型剤に関するものである。

更に詳しくは、ゴム、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂等の
高分子化合物又はセメント、セラミック等の成型物製造の
際に金型に塗布して使用される様な優れた離型効果及びそ
の持続性を有する離型剤に関するものである。

かかる用途の離型剤としては従来シリコンオイル、バラ
フィンワックス、鉱物油等が使用されているが、離型効果
が不充分であつたり、離型剤が樹脂等の成型品に付着して
成型品の品質低下を招く等の問題点が多く見られ、十分な
ものとは言い難い。又、ある種のフッ素系化合物が離型性